

# 米クルードラゴン打ち上げ成功

# 55歳野口さん3度目宇宙

## 初の民間機「切り込み隊長」自負

3回目の飛行となる野口聡一さん(55)。過去にはスペースシャトル・コロンビア号事故後の再開飛行(2005年)や、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の飛行士として初のロシア・ソユーズ宇宙船搭乗(09年)などを担当した。日本の有人宇宙飛行の節目となる場面で活躍し、「切り込み隊長」役を自認する。(1面参照)

今回の飛行で、野口さんという年齢など、さまざまなハードルに立ち向かう気持ちを表したものだ。搭乗するのは、民間企業

日本人宇宙飛行士の主な歩み	
1992年9月	▶ 毛利衛さんが米スペースシャトルに搭乗
2005年7月	▶ 野口聡一さんが初飛行
09年3~7月	▶ 若田光一さんが国際宇宙ステーションに長期滞在
12月	▶ 野口さんが2回目の飛行
15年7月	▶ 油井亀美也さんが初飛行
16年7月	▶ 大西卓哉さんが初飛行
17年12月	▶ 金井宣茂さんが初飛行
20年11月	▶ 野口さんが米新型宇宙船クルードラゴンで3回目飛行



手を振りながら新型宇宙船「クルードラゴン」の発射台へ向かう野口聡一さん(右端)=15日、米フロリダ州ケネディ宇宙センター (AP=共同)



野口聡一さんが乗った宇宙船「クルードラゴン」を搭載し、ケネディ宇宙センターから打ち上げられるファルコン9ロケットの光跡。15日、米フロリダ州ケネディ宇宙センター (AP=共同)

## スタイリッシュ、高性能の宇宙服

**野口さんが着る宇宙服**

- タッチパネルの操作が可能で手袋
- ハリウッド映画の衣装デザイナーが手掛けたスタイリッシュなデザイン
- 3Dプリンターで製造したヘルメット
- 手袋との結合部品を省いて軽量化
- 切れ目がなく空気を漏れを防ぐ
- 機体とつながるケーブルを接続。宇宙服の内部の気圧を一定に保ち、通信も可能に

※写真はJAXA提供

切れ目がない白と黒の宇宙服を着た飛行士がタッチパネルで機体を操作する。スペースXのクルードラゴンは、宇宙服のイメージを覆すスタイリッシュさを備える。ベキなタッチパネルで機体を操縦する野口聡一さんが「全体で衝撃を吸収して守ってくれる、乳母車のような構造だ」という安全性能付きだ。野口さんによると、宇宙服は「スターマン」と呼ばれ、デザインはバットマンなどハ

## 映画衣装のデザイナーを起用

ハリウッド映画のヒーロー衣装を担当したデザイナーが手掛けた。防炎性があり、ヘルメットや手袋との切れ目がなく、空気が漏れない上、軽くシンプルで構造なので故障も少ない。ヘルメットは強化プラスチック製で、製造に3Dプリンターを用いた。着脱後、太もも付近に機体とつながるケーブルを接続。これにより宇宙服の中の気圧が一定に保たれ、通信も可能になる。

帰還時の大気圏突入カプセルにもなる居住部の底には、超高温に耐える特殊な炭素素材を使用。突入後はパラシュートを広げ、静かに海面に着水する。居住部は噴射エンジンを備えており、緊急時の脱出力アップセルにもなる。

の米スペースX社が開発した新型宇宙船。米航空宇宙局(NASA)とは設計思想も開発プロセスも異なる。試験飛行に成功したとはいえ、半世紀近く死亡事故がないソユーズに比べれば、実績は乏しい。石川島播磨重工業(現IHI)のエンジニアだった野口さんは「民間企業も人命を預かることの重さを十分理解した上で開発を行っている」と強調。一方で「新型宇宙船はまだ開発中。試験飛行で出た問題をつぶして、安全性を高めるためにすべきことを

一つ一つ探していく」と語る。3回目の飛行は、同行する3人の米国人飛行士と比べても最も多い。シャトル搭乗経験がある野口さんだけだ。初飛行の時に、先輩方から受けていたような話をする立場になったのかな」とベテランとしての役割も意識する。

## 笑顔で「行つてきまーす」

米宇宙船「クルードラゴン」に乗り込む野口聡一さん(55)は16日午前6時すぎ登場。同僚の米国人宇宙飛行士3人とともに、家族や

関係者の見送りに「行つてきまーす」と笑顔で応えた。シンプルで白い宇宙服姿の野口さんは、終始リラックスした表情。拍手の中、野口さんはガッツポーズや、時折おどけたようなポーズも見せた。オレンジ色の宇宙服で、クラシカルな銀色の専用バス「アストロパッド」で発射台に向かったスペースシャトル時代とは様変わり。野口さんは、近未来的な米テスラ社の白い電気自動車に乗り込み、発射台へと向かった。

野口さん 民間機で宇宙へ  
米クルードラゴン打ち上げ成功 日本人初搭乗 記事2

名前